パーソナルファイナンス学会

JAPF News No.47　2022. 12.26

2022 年度全国大会オンライン開催
開催日：2023 年 2 月 18 日（土）
統一論題「庶民金融の歴史」

開催趣旨

大会委員長
堂下　浩（東京情報大学）

庶民が必要な資金を調達する「庶民金融」は、古い歴史があるにもかかわらず、金融システムの観点から注目されることは少なかったと言えます。特に、戦後の経済的な混乱期を経て、高度経済成長期から今日に至る過程で発展した庶民金融の歴史に関しては、「街金」や「サラ金」という、庶民金融の業界を揶揄した言葉で捉えた書物が世間から耳目を集める程度でした。しかし近年、国民の消費行動が多様化する中、金融がデジタルなどの新たな技術と急速に融和しており、庶民金融の変遷は学術的な視点で正しく理解される必要性が増しています。そこで、本年度のパーソナルファイナンス学会においては、「庶民金融の歴史」という統一論題で、広く研究者間において有意義な議論を深めていきたいです。

****

第 22 回全国大会自由論題報告募集

発表形式：Zoom オンライン
発表時間：30 分
（研究報告 20-25 分、QA 5-10 分）
募集報告数：2－3 報告
応募先：リエゾンオフィス
japf@ibi-japan.co.jp
締切：2023 年 1 月 16 日（月）
※発表希望の方は、報告要旨（A4 サイズ 1 枚程度）を添えてメールにてご応募ください。

****

2022 年度学会賞決定

『中国のシャドーバンキング
形成の歴史と今後の課題』
（早稲田大学出版部、2022.5.30）
李　立栄（亜細亜大学）著

学会賞委員会において、厳正な審査の結果、上記の通り、「中国のシャドーバンキング　形成の歴史と今後の課題」に決定いたしました。研究奨励賞の該当作はございません。

****

講　評

学会賞委員長
前田真一郎（九州大学）

2008 年前後における世界的な金融危機の発生原因の一つとして、シャドーバンキングの拡大が挙げられる。本書は、中国におけるシャドーバンキングの実態と変遷を追跡しながら、その形成過程と機能、発展メカニズムを明らかにしたものである。さらに米国の事例と対比しながら、中国のシャドーバンキングが金融システムにおいて果たす役割とリスク、今後の規制改革の方向性についても踏み込んで考察している。

具体的には、以下のような点をもとに、優れた学術研究書であると評価できることから、本書は学会賞に値すると考えられる。

（1）研究課題：中国の経済において大きな役割を果たしているにもかかわらず、その実態が十分に解明されていないシャドーバンキングの変遷と実態について明らかにしている。本研

究課題は、わが国ではほとんど研究されていない未開拓な研究領域である。

（2）研究方法：可能な限り政府・当局、金融機関の公式データと民間調査会社のデータを用いるとともに、現地での丹念なヒアリングに基づいて収集した独自データを用いた分析を行っている。

（3）本書の意義：シャドーバンキングの研究において重要な要素（その形成過程と機能、金融システムの役割、潜在的なリスク、規制当局の対応など）について論理を展開し、中国における債務拡大の背景を明らかにしている。

（4）学会への貢献：シャドーバンキング拡大の背景にある家計・個人の行動についても考察している。また、銀行では十分にカバーしきれない領域が多い中国における金融システムのあり方について考察している。

****

2022 年度西部部会盛会に終了

先日開催された西部部会は、約 20 名のご参加をもって成功裏に終了いたしました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。当日の概要を以下に報告します。

日時：12 月 17 日（土）
　　15：00-17：30
会場：キャンパスプラザ京都 6 階 第 5 講習室

【プログラム】
開会挨拶：竹本 拓治（西部部会長／福井大学）
報告（1）川瀬 扶美（堺市役所）
「子どもの貧困とパーソナルファイナンス教育」
報告（2）殿垣 雄介（福井大学大学院工学研究科）
「金融教育の日本における現状分析と国際比較
　－発展度・貧困率の差による違い」
報告（3）高柳 卓門（福井大学大学院工学研究科）
「酒粕が珈琲の価格に与える定量的分析」
閉会挨拶：藤田 哲雄（京都大学）
※終了後に懇親会を開催

報告（1）「子どもの貧困とパーソナルファイナンス教育」

川瀬 扶美（堺市役所）

「子どもの貧困」「貧困の連鎖」の解消をめざした取組として、パーソナルファイナンス教育を考える。

社会格差が広がり相対的貧困にある子どもの割合が 7 人に 1 人となる中、とりわけひとり親世帯では 48.1%（国民生活基礎調査・2018 年）と、ほぼ 2 人に 1 人が相対的貧困状態にある。2014 年 1 月施行の「子どもの貧困対策の推進に関する法律（子どもの貧困対策推進法）」では基本理念「子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのない社会の実現」が掲げられており、政府としての総合的な取組の推進として内閣府、文部科学省、厚生労働省などの関係省庁の連携、また地方公共団体の責務（子どもの貧困対策に関し、国と協力しつつ、当該地域の状況に応じた施策を策定し実施）が義務付けられている。

児童福祉行政の窓口で年 1000 世帯以上のひとり親世帯から現況を聞き取った経験と、生活困窮世帯への様々な手当やコロナ禍においても複数回行われた給付金支給等の仕組みにも触れながら、行政での取組例を通じて金融教育の重要性を考察する。

報告（2）「金融教育の日本における現状分析と国際比較－発展度・貧困率の差による違い」

殿垣 雄介（福井大学 大学院工学研究科）

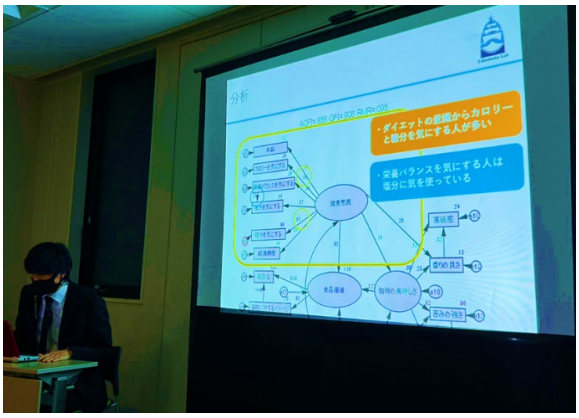
本稿では、日本でも 2022 年度から必修化された金融教育について取り上げる。金融教育とは金融リテラシーを高め、個人としての自立とよりよい社会づくりに向けて主体的に行動する力を養う教育である。必修化された理由の 1 つとして、日本では金融リテラシーの水準が国際的に高くないという問題がある。

すでに金融教育が盛んな各国の事例を調べると経済発展度による各々の社会問題によって確立された教育がなされており、注力する金融教育の要素が異なると考えた。よって日本の現状分析を行うと共に、経済発展、貧困率、その他、国別の量的データをもとに構造方程式モデリングにて関係性を解析することで、日本の金融教育の確立に向けた参考になることを目的とする。想定結論として GDP が高くなるほど、知識から行動の順でリテラシーがあがり、具体的には貯蓄から投資といった段階的な教育が求められると想定される。

報告（3）「酒粕が珈琲の価格に与える定量的分析」

高柳 卓門（福井大学 大学院工学研究科）

酒粕は産業廃棄物として年間約 1800 トン排出されている。SDGs の流れから酒粕を利用することで、商品の価値を上げることが可能であれば、酒粕の利用が増えると考えた。そこで、私は酒粕の香りを定着させた珈琲を開発した。本商品を実際に試飲した人に対して苦味・酸味・酒粕の香り・高級感・美味しさ・酒粕のイ



メージについて 5 段階評価で質問と、一杯の希望価格の質問のアンケートを実施した。そのデータを重回帰分析にかけ、目的変数を希望価格に設定し、それ以外を目的変数に設定して分析をかけた。その結果である香りと酒粕のイメージの係数をその他と比較し、酒粕の影響度を定量的に算出した。酒粕が商品に対してポジティブな付加価値になる結果を想定している。

****

Web ジャーナル
『パーソナルファイナンス研究』No.9
招待論文 2 編を掲載予定です

招待論文

「ヤミ金融の浸潤から見た貸金市場の持続可能性に関する調査」

東京情報大学教授　堂下 浩

「タイトル調整中」

早稲田大学教授　坂野友昭

JAPF News 第 47 号
発行日：2022.12.26
発行：パーソナルファイナンス学会
監修：国際交流・広報委員長
山本崇雄（神奈川大学）
編集：リエゾンオフィス
【業務受託】(株)国際ビジネス研究センター
〒162-0041　東京都新宿区早稲田鶴巻町 518
司ビル 3F　☎ 03-5273-0473